



栽培面積: 3ヘクタール
 平均樹齢: 35年
 年間平均生産量: 7000本
 ブドウ品種: ピノ・ノワール

2018年のヴィンテージ

非常に暑く、乾燥した春夏に特徴づけられた2018年は、ブドウが早熟し、非の打ち所なく健全に完熟したブドウが収穫できました。

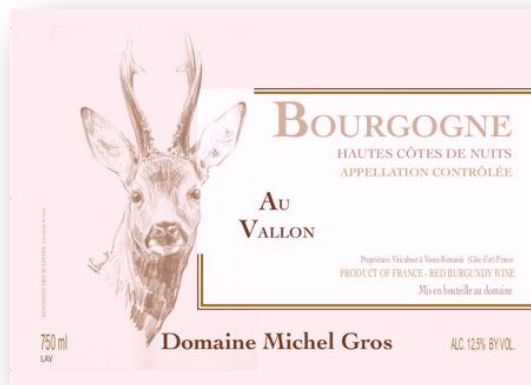
2017年が幕を閉じ、2018年が明けたその冬、ブルゴーニュの冬にしては比較的温暖で雨がちな天候がつづき、しっとりとした清涼な春を迎えました。その頃は今年のブドウの成長はむしろ遅いだろうと考えられましたが、4月に暑い気候が再来。それまでの読みを大きく修正せねばならず、夏の終盤まで猛烈な勢いでブドウは成長していきました。私たちの栽培チームは、このハツラツとしたブドウの成育に遅れをとるまいと、仕事のペースを二倍に吊り上げ、ハイスピードで追い上げていきました。

5月末になるとブドウが開花し、開花期は理想的に過ぎていきました。この分だと9月初旬には収穫になるだろうと予想されました。春、夏と雨量が足りなかったことも、私たちのブドウ畑ではそれほど問題にはならず、おそらくは冬の間に地下に蓄えられた水が、ブドウの成長の供給源になったのだろうと考えられました。

7月には何度か雷雨が訪れ、9月初めまでにブドウが完全に成熟するための良い水分補給となりました。残念ながら、7月3日と15日の雷雨の際に降った雹は、私たちのオート・コート・ド・ニュイの畑のブドウを傷つけ、このとき平均50%のブドウを失いました。また、ニュイ・サン・ジョルジュのレ・シャリオの区画では、約30%のブドウを失いました。

私たちのドメーンでは、9月4日にコート・ド・ニュイのクリュから収穫を開始し、9月17日にオート・コート・ド・ニュイの畑で収穫を終えました。

収穫したブドウは文句のつけどころのないパーフェクトな状態で、その中から更に良いブドウを選び抜くなど、ほとんど必要はありませんでした。ただ、雹害に遭った区画のブドウだけは綿密な選果の必要があり、幸いにも視覚機能を備えた選果機を使用することができ、雹で傷ついた粒をすべて除けることができました。



一般年と比べてブドウが早期に熟し、収穫期が早めに訪れたこと、そして収穫されたブドウが健全な状態で完熟していたこと、それらの好条件のもとに醸されたこの年のワインは、暑い年でもブドウのフレッシュさを保った偉大な純粋さがあり、はじけるような果実味が生き生きと表れています。これならば長期熟成を遂げるポテンシャルを秘めた偉大なヴィンテージであること、今からでも予言することができるでしょう。

2018年を一言で語るなら、太陽のヴィンテージ。太陽が与えてくれたピュアで魅惑的な味わい、きめ細かなタンニン、しなやかなボディ、良質の酸。こういったヴィンテージのワインは、忍耐強くワインが熟す時を待った愛好家たちに、大きな喜びを与えてくれるはずで。

「天候面」だけをとって過去のヴィンテージに例えるなら、2003年、2009年に類似性があると言えるでしょう。

プレスリリース



International Wine Challenge 2019
 Bronze Medal

Burgundy Report

Bill Nanson, March 2020

Again, lots of depth to the colour. The nose is much higher-toned, of dark fruit and almost suggesting volatility – I don't find delicate flowers here. Mouth-filling, sweeter. The texture modestly accented by the ripe tannin. It's a super finish – rather complex and textural. Overall a riper and more 2018 Côte d'Or style of presentation. I much prefer the other two wines presented by this domaine.



October 2020: 15,5/20



Allen Meadows
 BURGHOUND.COM
 The ultimate Burgundy reference

Allen Meadows, 10/01/2020,
 Issue 77

A top note of menthol is present on the spicier aromas of dark raspberry and cherry. The succulent, energetic and very round flavors exude a subtle minerality on the lingering if again slightly drying finish that my projected range assumes will likely harmonize with a year or two of bottle age.

Burgundy Briefing. Sarah Marsh, November 2019

It is a parcel which is quite steep and looking south, so riper but less acidity. Dark fruit. Rich, spicy. Juicy. Slightly burly tannin.